

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1475300693	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	工藤建設株式会社		
事業所名	グループホームフロレンスケア たかつ		
所在地	(〒213-0026) 神奈川県川崎市高津区久末1744-2		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月7日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭の延長の様な温かな雰囲気作りとコンセプトである『心地よさ』追求すべく努力をしている。その為にもその人（入居者）を知る事の大切さを意識し毎日が新しい発見の時でありアセスメントであると意識している。入居者の出来ない事に目を向けるのではなく、何が出来るのかの視点で考え手助けしながら自立した張りのある生活につなげていきたい。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年2月17日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

**【概要】**  
この事業所は、JR線武蔵新城、市営地下鉄高田、東急線溝の口及び綱島駅などからバスで15分前後の幹線道から少し入った住宅地に立地し、同一法人のデイサービスを併設している。事業所内はバリアフリーでエレベーターがある。常勤職員の割合が高く、職員は、ヘルパー1級や介護福祉士などの資格取得に意欲があり、楽しみながらサービスを提供しているように見受けられた。毎月音楽セラピーを導入している。1名の看取りを経験している。

**【理念の実践】**  
「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来」という理念を掲げている。「利用者は何が出来るのか」の視点で考え、サービスを提供している。利用者と職員が協力して毎日行っている部屋の掃除や食事の下準備、買物、洗濯物たたみなど、利用者の希望や状況に合わせたサービスを提供し、理念の実践に努めている。管理者が代わり3ヶ月を経過したが、前任者が行ってきた自主自立支援のスタンスを変えずに今後も取り組む意向である。

**【運営推進会議の取り組み】**  
運営推進会議に町内会の副会長が加わったり防災訓練に住民3名が加わるなど「地域に協力を呼びかけ、地域住民の参加協力の下で防災訓練を実施する」という、目標達成計画を實踐している。「運営推進会議の充実」については今後も継続して取り組む内容として認識している。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	1Fユニット

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。	「思いやりの心と確かな介護技術で介護高齢者の明るい未来」という理念を掲げている。毎日の唱和及び玄関や談話室に掲示するなど確認し、理念を共有している。ホーム長は、思いやりを持って働くことを職員に話している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。今は花壇や畑の手入れを地域住民の方と一緒にすすめている。	久末町内会に加入し、どんと焼き、地域清掃などの地域行事に参加している。小学生の体験学習や同一法人のデイサービスと合同開催の納涼祭などで地域の方と交流している。アニマルセラピー、オカリナ、フラダンスなどのボランティアが事業所を訪れている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。			
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。	運営推進会議のメンバーは、利用者及び家族、町内会役員、地域包括支援センターの職員である。年6回開催し活動報告が行われている。町内会婦人部を通してフラダンスのボランティアを活用するなどして、町内との関わりを増している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。	市や区の介護保険課の職員とは、書類作成や事故報告の際などで協力関係を築けるよう努めている。地域包括支援センターの職員との情報交換が主である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアに「身体拘束の手引き」の資料をスタッフの目の届く場所に置いてある。玄関21:30～6:30迄は、防犯の為に施錠しているが、各フロアの出入口に関しては開放している。	昨年9月に身体拘束の研修を行い職員に理解を促している。日中、玄関は施錠していない。ユニットの扉は、赤外線センサーとチャイムで出入りが分かるようにしている。利用者の外出しそうな様子を察知した時は、職員と一緒に外へ出たり他ユニットを訪れている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で尊厳について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識づけ防止している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、全体会議等を通してフィードバックしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。	毎月、利用者の写真を掲載した「ほほえみ」を発行し、家族などに利用者の様子を伝えている。年2回運営懇談会を開催し家族の意見を聞き「買物でストレスを発散させてほしい」などの要望に応えている。苦情相談窓口のポスターを玄関に掲示し、申し出ができる旨を伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議とユニット会議を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。	ユニット会議やホーム長との個別面談などで職員の意見を聞いている。「歩くのが困難になり買物へ出かける機会が少なくなるので車を利用したらどうか」などの職員の意見を反映し実践している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしてている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の訪問見学は随時行ない情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当の設置をし、アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人と接し話しやすい環境を作り安心感を持って頂ける様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	窓口を一つにして面会時や電話の際傾聴し要望等があった際、記録に残し対応する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と一緒に出来る事を見つけスタッフはサポートとして家事等共に行い生活している中で関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時及び電話連絡の際現状のご様子をお伝えしたり、一緒に参加出来る行事等企画をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛ける様スタッフも協力している。	アセスメントや家族の話などから利用者のこれまでの関係の把握に努めている。利用者が美容院へ出かけたり、正月に帰省するなど馴染みの関係を維持している。利用者の希望を聞き、年1回行楽地へバスハイクに出かけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子から人間関係を把握している。男性が1人の為1人になる事が多いがスタッフの関わりを多くし対応している。女性入居者はレクリエーションや家事等提供しながら関係作りが出来ている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですが連絡や年賀状の送付を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の意向等を聞き取り、ユニット会議やケアカンファレンス等で話し合い共有し検討している。	アセスメントや日々の会話、家族の話から「縫い物が好き、図書館や買物に行きたい」など、利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な利用者は、表情から思いを読み取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票及びご本人やご家族との会話の中で、出来るだけ多くの情報を得る努力をし、スタッフ間で共有し把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や記録、チェック表等で把握に努めている。その為記録の書き方の研修を受け記録の充実を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者と居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。	担当者が立案した計画を基に医師など必要な関係者と話し合い、本人や家族からの「清潔に過ごしたい」などの要望を把握した上で計画書を策定している。3ヶ月に1度モニタリングし、計画書は6か月に1度見直している。状態の変化が見られた際は随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面や金銭面等の相談がありここでの生活に支障が出た場合ご本人・家族にとって安心出来る場所への他機関を含め情報を提供している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物の際、近隣の方々と挨拶から馴染みとなり会話を楽しんだり、小学生の体験学習や地域ケアプラザの図書館を利用し、地域資源の把握に努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関及びご家族と連携をとり、医師の指示にて受診介助を行なっている。	定期的に往診に訪れる内科、歯科、眼科の医療機関と提携している。1名を除く全員が内科の訪問医を受診している。かかりつけ医への受診は、家族が対応しており、受診後に家族から報告を受け、適切に医療を受けられるようにしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいないので何かあれば協力医療機関の往診医へ相談している。又併設のデイサービスの看護師への協力相談も時として行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営懇談会にて終末期のあり方について話し合い、順次往診医とご家族の面談の機会を設け急変時の対応等ご家族より同意を頂いている。	入居時に「看取り介護に関する指針」で事業所の方針を説明し家族から同意を得ている。看取りの際は家族の意向を再確認し、再度同意書を得ている。職員はマニュアルで事業所の方針を共有している。1名の見取りを経験している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中及び夜間を想定して実施している。地域推進会議の地域住民代表の方とも話し合いを持っている。	年2回の避難訓練を行っている。消防署立会訓練と夜間を想定した自主訓練を実施している。近隣へ避難訓練の参加を呼び掛け3名が参加している。3日分の水・非常食、カセットコンロなど、非常災害時の備蓄を確認した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本部研修や内部研修を行い、ユニット会議等で言動に注意する様伝えている。	昨年9月に接遇の研修を行っている。チャン呼び、排泄支援はさり気なくなど、人格を尊重した言葉づかいをするよう努めている。訪問時、職員の声掛けなどにおいて人格を損なうような対応は見うけられなかった。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作り選択しやすい工夫をして、その人らしい生活が営める様援助している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々家事やレクリエーション等提供するが無理強いせず本人のペースで生活出来る様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容等個別に馴染みの物を使用している。訪問理美容も毎月入りご本人の意思にて行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフがサポートして調理や片付け等を行っている。メニューは家庭料理がメインだが、入居者の希望や検食簿等から毎月見直し、量も個々に合わせた量を提供している。	旬の食材を利用し食事を提供している。好評なものは回数を多くしたり、出前などで食事を楽しめるようにしている。利用者は食事の下ごしらえ、食材購入、味付けなどを行っている。職員は、見守りをしながら同じものを一緒に食している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を考え、その日の体調を考慮して食べやすく提供している。食事量のチェックや水分量に少ない方には嗜好品をこまめに提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人にあった口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンをチェック表等を通して把握し適度な運動（腹筋運動等）を心がけ失禁の無い様心掛けている。拒否の方への対応は検討中。	利用者の排泄パターンや「水をいじる」などのサインを把握し、排泄の失敗に対応している。「安易にオムツにしない」など、排泄の介助によりトイレで排泄ができるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分も1日1200CC以上摂れる様こまめに提供している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴を行い石鹸やシャンプーも好みの物を使用し入浴時間も20分～50分程かけ入って頂いている。但し、曜日は毎日提供しているが、時間は13:30～16:00と限られている。	毎日お風呂を沸かし、概ね2～3日に1度のペースで入浴している。入浴を好まない利用者には、職員を替えて入浴を促すなどを行っている。歌を唄いながらゆったり入浴できるよう時間を取る、好みのシャンプーを使うなどで利用者が入浴を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明の明るさや室温等個別に調整し好きな時間に穏やかな気持ちになって頂ける様に声を掛け休んで頂く。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフロアーに置き開示し、夜勤者が翌日1日分の配薬をセットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の好きな方には材料を切ったり洗い物をしたりと積極的にして頂いたり、歌の好きな方には大きな声で歌って頂き楽しみながら生活をしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子のお話を近隣の方ともしている。季節に応じて花見やご家族と一緒にバス旅行等も企画している。	個々のリズムや要望に合わせて散歩や買い物に出かけている。「年間計画」を作成し季節の花見や初詣、江ノ島水族館などに出かけている。スーパーの買い物は車で行っている。車椅子でも同様に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があれば近隣のコンビニ等で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や連絡が来た際電話の取次ぎを行っている。手紙の場合も一緒に切手を買ってポスト投函している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝一緒に掃除を行い衛生面に留意している。レクリエーション等でフロアの飾りを作成したり季節の行事等行い楽しんで頂いている。	節分の鬼の面を飾り季節感を出していた。光はカーテンで調節している。冬季は、加湿器を使用し感染症対策をしている。特に気になる音や温度差は、感じられなかった。窓を少し開けたり、換気扇を使用したりして匂いの配慮をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内には談話室や食堂等で気の合うお仲間と過ごせる空間があり、飾りなどにより話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物（家具）等を持ち込んで頂き、馴染みのある物の中で生活して頂いている。	居室内にある事業所の備品は、エアコン、換気扇、クローゼットである。部屋ごとに照明器具、カーテン、タンス、テレビ、仏壇、写真などが持ち込まれており、床にマットレスを敷き休むなど、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

事業所名	グループホームフローレンスケアたかつ
ユニット名	2Fユニット

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業方針の一つに「介護高齢者と地域社会に貢献します」とあり、毎朝朝礼時に唱和し、地域の大切さを共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり散歩や買い物をしながら回覧板を届けたりする中、自然とご近所との触れ合いが生まれている。今は花壇や畑の手入れをご近所の方と一緒にすすめている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を回覧板にのせグループホームの活動も紹介している。今後は認知症サポーターとしてもここでの経験を生かして活動していきたいと思っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ご意見やご要望を伺っている。色々な立場からの提案は参考にしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令遵守の観点から、運営上迷う事があれば都度相談し業務にあたっている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、フロアーに「身体拘束の手引き」を配置しいつでも見られる状況にしている。入居者が少しでも苦痛の感じる事の無い様日々努力している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修又は外部研修にも参加し、各会議等で虐待について話し合い、普段の声掛けからも虐待ととられる場合がある事を意識つけている。又、入居者への心の訴えを見逃さない様注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本部から本の提供があり、訪問者もいつでも閲覧できるようにしている。又外部研修においての資料をもとに、全体会議等を通してフィードバックしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、疑問や不安が残らない様、安心して契約して頂ける様配慮している。料金や医療面の事は特に丁寧に話をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営懇談会の場のみならず、サービス担当者会議や面会時には必ずお気づきの点やご要望を伺う様に心掛けている。又普段の様子等電話でお伝えするだけでなく合わせてご意見を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議とユニット会議を毎月1回開催し、スタッフの意見や提案に対して検討する機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが訪問され、現状の把握と希望・要望を聞く機会を設けている。又人事評価委員会の発足のもと、キャリアパスの運用や事例研究発表会等で意欲を持てる様にしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部内部研修を積極的に行ない又それをフィードバック研修として生かしている。管理者は本部より「部下の育成」を目的とした管理者研修の機会があり、管理者自ら成長出来る機会を与えられている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者の訪問見学は随時行ない情報交換の場としている。又同法人の施設との交流や勉強会、時には異動等も行い双方の事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント票に記入してある内容をスタッフ全員が把握し、ご本人の意向をゆっくり静かに傾聴し無理なく行う。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は生活が見えない分不安や心配が多いと思うが、面会時等はいつもの様子をお伝えし要望を伺いながら安心して頂く。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際、ご本人やご家族より希望要望を良く聞き、必要としているサービスがあれば良く見極め、出来る限りの提案をして選択出来る様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見つけ、見守りながら皆で一緒に楽しみながら行う。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族双方の思いに耳を傾け、ご本人の一番良い生活になればと思う。一緒に参加出来る行事等企画し、楽しいひと時を過ごせる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援            本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の協力のもと、ご自宅や馴染みの場所へ出掛けられる様スタッフも協力している。ご本人が大切にしていてる人や思っている人の話をしたり安心して頂ける様にしている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援            利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う方、合わない方がいる中でスタッフが関わっていく中で温和を保てるように工夫している。レクリエーションや家事等を通じてより良い関係作りが出来ている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み            サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他の施設に入居した家族や、入院により退居された家族などとも、不定期ですが連絡や年賀状の送付を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から皆様色々な思いで暮らされている事を察する。ユニット会議やケアカンファレンスにおいてその思いを共有しその方に応じた接し方を心掛けている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント票をもとに日々の暮らしの中でご本人との会話やご家族面会時にお聞きし把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の充実を図り各自閲覧しチェック表、申し送りノート等を共有し総合的な現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等でご本人やご家族への思いを伺い、計画作成担当者や居室担当者（スタッフ）のそれぞれの立場での考えを合わせ作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は介護ソフトに様子等入力し、他のスタッフも確認し情報を共有しながらケアカンファレンスに反映されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のやりたい事出来る事を見つけて、一緒に楽しみながら生活するのが基本であるが、状況によってはご本人・ご家族が安心出来る様な支援が必要であれば柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、自治会行事への参加、小学生との交流、運営推進会議等では地域住民の方や地域包括のケアマネジャーより情報交換をしている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を実施、ご本人ご家族と往診医の関係をスタッフが取り持ち共有している。ご家族が往診医と話しが出来る様にムンテラを随時設定している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事があれば随時協力医療機関へ連絡をして指示を仰いでいる。又併設の事業所であるデイサービスの看護師にも相談や様子確認を依頼している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時介護サマリーや生活状況を適切に医療機関に伝え、入院先への面会時に医師・看護師より情報を得ている。退院前にはムンテラに参加しホームでの生活が安心して送れる様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>運営懇談会ではいつも議題にのせ終末期のあり方を話し合っている。往診医とご本人・ご家族と面談の機会を随時設け、希望要望を伺いスムーズな連携が図れるようにしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルを常に目の届く所に置き、直に連絡出来る様になっている。主要の連絡先も壁に張り出している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を行っている。グループホームにおける防火体制の研修等にも参加し、対応を皆で検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生き方、職業、生活等を念頭に置き、それぞれの入居者を尊重して接している。接遇の研修や職員会議等で度々言葉遣いや態度について話し合いの場を持っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を最優先し、家事や散歩等一緒に相談しながら行なっている。なるべく自己決定しやすい様な声掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も入居者と相談しながら行い、ゆったり穏やかな一日が過ごせる様配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容の散髪やけ染めを行なっている。ご本人の意見を尊重しながら清潔感のある服装・身だしなみがしやすい様にしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付け迄一緒に会話を交え協力して行い、楽しみになる様にしている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べやすい食事形態にしたり、途中から介助しながらなるべくご自身で召し上げられる様にしている。食事は記録に残しスタッフ全員で把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後無理の無い声掛けにて口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け排泄パターンを把握しトイレ誘導している。なるべくパットやオムツに頼らずご本人の意向に合わせた介助をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多いメニューを作り、水分補給はこまめに提供している。運動も大事にて毎日の散歩や体操も日課に取り入れている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や希望により週2～3回の入浴を行っている。但し、曜日は毎日提供しているが、時間は13:30～16:00と限られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には馴染みの家具を置いたり、ご本人の生活スタイルに合わせて安心して休息出来る様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書をフローア-に置き開示し、夜勤者が翌日1日分の配薬をセットし、服薬時再度確認のダブルチェックを行っている。症状に合わせて往診医と相談出来る環境がある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好きな方には料理を、洋裁が得意であった方には縫い物を手伝って頂いたり、レクリエーションや外出等気分転換を図って頂ける様にしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日雨天以外は散歩や買い物に出かけ、途中花や周りの様子の話を近隣の方ともしている。季節に応じて花見やご家族と一緒にバス旅行等も企画している		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物に付き添い好きな物を購入出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力も得て、本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった塗り絵や書道、飾り付をし、心地よく過ごせるように工夫している。毎朝全員で居室や共用部分の清掃をし、清潔に生活出来る様配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や食堂等で気の合った仲間と過ごせる空間がある。回廊には作品や写真などを掲示し会話が盛り上がる雰囲気作りを工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前から使用していた食器や家具等、馴染みのある物の中で生活して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、トイレ等は分かり易く表示している。テーブル等は角の丸い物を使用し安全な導線を確認している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHフローレンスケアたかつ

作成日 平成26年1月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	サービスの質の維持・向上の為に、離職率の低下に努め安定した人員体制を図る。	働きやすい環境作りと、個々の目標設定をし、やる気とモチベーションを上げる。	職員個々との面談を通し、困っている事や今後の目標について話し合う。	1年間
2	3	運営推進会議で運営報告会に終わってしまう傾向があるので、より具体的なサービス向上の場となるようにする。	参加して頂ける方の意見が出易い雰囲気にし、町内会長や民生委員等幅広い参加の声掛けや意見徴収をしていく。	地域交流の場に参加し信頼関係を築いていく。ご家族から意見が出易い様に会議の進め方や内容の見直しをしていく。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。